

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																
出雲医療看護専門学校	平成25年2月10日	橋本 勝信	〒 693-0001 (住所) 島根県出雲市今市町1151-1 (電話) 0853-25-7034																																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																
学校法人大阪滋慶学園	昭和62年3月31日	理事長 浮舟 邦彦	〒 532-0003 (住所) 大阪府大阪市淀川区宮原1-2-8 (電話) 06-6150-1301																																																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																														
医療	医療専門課程	臨床工学技士学科		平成26年文部科学省 認定	-																																														
学科の目的	医療の質の向上に貢献できる幅広い知識・技術を持ち、生命維持管理装置を中心とする医療機器の操作、保守、点検を医療チームの一員として行う人材を養成する。																																																		
認定年月日	平成31年3月5日																																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																												
3年	昼間	109	74	22	13	0	0																																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																														
90人	34人	0人	5人	71人	79人																																														
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 出席状況、小テスト、試験の結果を総合的に評価 評価の方法: 定期試験60%以上																																															
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:1週間以上 ■冬季:1週間以上 ■学年末:1週間以上		卒業・進級条件	卒業要件:																																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 入学前はプレカレッジや学びのセミナーの実施、入学後は学習態度や欠席が続く場合など、担任が学生や保護者と面談し原因を把握し、学科で共有し対応する。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 各種ボランティア活動、技士会ボランティア ■サークル活動: 有																																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 出雲徳洲会病院 日本赤十字社 益田赤十字病院 独立行政法人 労働者健康安全機構 山陰労災病院 鳥取医療生活協同組合 鳥取生協病院など ■就職指導内容 就職フェアの開催、進路相談、キャリアデザイン講座、小論文対策、模擬面接、小論文対策など ■卒業生数 18人 ■就職希望者数 18人 ■就職者数 18人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他 ・進学者数: 0人 ・島根県立大学 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床工学技士</td> <td>②</td> <td>18人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>第2種ME技術実力</td> <td>③</td> <td>18人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 国際臨床工学フォーラム日刊工業新聞社賞受賞				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	臨床工学技士	②	18人	18人	第2種ME技術実力	③	18人	14人																																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																
臨床工学技士	②	18人	18人																																																
第2種ME技術実力	③	18人	14人																																																
中途退学の現状	■中途退学者 5名 令和3年4月1日時点において、在学者46名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者41名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学力低下のための進路変更、メンタル低下のための進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 学校カウンセリングの実施や保護者連絡・面談、本人面談など		■中退率 11%																																																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 大阪滋慶育英会 受験生本人または兄弟姉妹が本校または大阪滋慶学園姉妹校に在籍又は卒業している方が対象 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 該当者なし																																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0		評価結果を掲載したホームページURL 0																																																
当該学科のホームページURL	https://www.icmn.ac.jp/course/ce/																																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
臨床実習における実習指導者会議や施設訪問また、専門性の高い外部講師からの意見を通して協議し、学科会議等で共有する。
また、教育課程編成委員会からの意見と合わせて、授業科目等に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
本校の教育課程の編成及び教育内容・教育方法等について、実践的かつ専門的な見地で業界と連携を図り、教育の質を担保するために教育課程編成委員会を設置し、高度職業教育に求められる教育について検討を行う。検討結果を学科にて審議し管理運営管理にて承認を得る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
原 徳子	公益社団法人 島根県看護協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
田中 真美	島根大学医学部附属病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
石田 修平	一般社団法人 島根県理学療法士会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
福田 淳	サインポスト合同会社 デイサービスサイン	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
福田 勇司	一般社団法人 島根県臨床工学技士会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
明穂 一広	島根大学医学部附属病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
西本 祥久	一般社団法人 山陰言語聴覚士協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
影山 洋一郎	出雲市民リハビリテーション病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
橋本 勝信	出雲医療看護専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
神田 真理子	出雲医療看護専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
今村 健次	出雲医療看護専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
落合 美枝	出雲医療看護専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
鎌田 麻美	出雲医療看護専門学校 看護学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
高田 秀志	出雲医療看護専門学校 理学療法士学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
加藤 智久	出雲医療看護専門学校 臨床工学技士学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
糸賀 亜美	出雲医療看護専門学校 言語聴覚士学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
堀内 あさみ	出雲医療看護専門学校 看護学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
太田 珠代	出雲医療看護専門学校 理学療法士学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
中山 弘幸	出雲医療看護専門学校 臨床工学技士学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—
内井 亮	出雲医療看護専門学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年6月11日 13:00～14:30

第2回 令和4年12月3日 14:00～15:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

年々下がるコミュニケーション力低下や学力低下などの指摘があり、実習前指導において臨床実習に用いるであろう分野の確認試験を行い、学内実習等では考えることや伝達能力の向上を中心に授業を展開している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床工学技士法と臨床工学技士業務指針に定める業内容を指導できる設備を有する医療施設にて学生の臨床実習を行う。臨床実習前に指導者会議を設け、基本的な臨床での指導方法などを説明し理解いただいている。学生指導においては共通理解の上で連携を図り学生の目的・目標を明確にできるように指導者と教員が意見交換しながら連携を取って行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

臨床実習カリキュラムは計180時間を医療現場にて、「臨床工学技士業務指針」を参考に実習および見学を行う。事前に施設代表者会議を行い、その後、提携施設にて実習内容や評価方法、学生について打ち合わせを行う。臨床実習中は実習指導者と教員が情報を共有し、各学生に個別に対応できるように話し合いを行いながら進めている。臨床実習終了には実習指導者は事前協議にて決定している評価方法にて評価をいただき、また校内にて実習のまとめを行い教員が評価をおこなう。施設評価と学内評価とをあわせ、指導者に確認後臨床実習の評価としている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	血液浄化業務、集中治療室および手術室業務、医療機器管理業務、その他等、計180時間の病院実習を実施する。	国立大学法人島根大学医学部附属
特別講演(HR)	臨床工学技士の今後の活躍や機器管理の重要性について滋慶医療科学大学の教授よりリモートでの講義	滋慶医療科学大学
電波障害について(HR)	医療機器の電波についてトラブルや対策の講義	中国電波通信局
システム・情報処理実習Ⅲ	マクロの復習を行った後で、Visual Basic でプログラミングを行い、就職先(病院、臨床検査機関)に於いて、簡単なシステムが開発できるようにする。	島立大学法人島根大学院総合理工
生体機能代行装置学実習Ⅰ	血液浄化装置に関する操作および保守管理、点検方法を中心に実習する。	花田クリニック・出雲徳洲会病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

臨床工学技士会の業界団体が主催する学会・研修会に参加し専門分野に関する最新の治療方針や技術を取り入れることで教員の知識の向上を図り、講義がより実践に近い状態で行うことができるため、各担当分野の教員を出席を促す(例)

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	教員研修	連携企業等:	日本臨床工学技士教育施設協議会
期間:	令和4年6月11日、6月12日	対象:	養成校教員
内容:	令和5年より変更される新カリキュラムについての報告とシラバス作成方法について		
研修名:	臨床工学技士養成校教員学術研究会	連携企業等:	日本臨床工学技士教育施設協議会
期間:	44821	対象:	養成校教員
内容:	令和5年より変更される新カリキュラムの構成の仕方について		
研修名:	中四国臨床工学技士会	連携企業等:	中四国臨床工学技士会
期間:	令和4年10月1日・2日	対象:	臨床工学技士
内容:	臨床工学技士の各校取り組み、臨床実習等について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 呼吸療法セミナー	44866	連携企業等: 島根県臨床工学技士会
期間:		対象: 臨床工学技士
内容 呼吸療法における現状や呼吸器における新トピックス		
研修名: 透析療法セミナー		連携企業等: 島根県臨床工学技士会
期間: 令和4年12月12日		対象: 臨床工学技士
内容 透析における現状や核施設の取り組み		
研修名: 学術大会		連携企業等: 島根県臨床工学技士会
期間: 令和4年4月12日		対象: 臨床工学技士
内容 他施設の取り組みや実績		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 告知研修		連携企業等: 厚生労働省
期間: 未定(秋季)		対象: 臨床工学技士
内容 臨床工学技士の業務改定に伴う研修		
研修名: 中四国臨床工学技士会		連携企業等: 中四国臨床工学技士会
期間: 令和5年10月28日・29日		対象: 臨床工学技士
内容 核施設の取り組みや臨床実習の現状等		
研修名: 教員研修		連携企業等: 日本臨床工学技士教育施設協議会
期間: 未定(6月下旬)		対象: 養成校教員
内容 新カリキュラムの状況報告と事例対策		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 各分野の研修等		連携企業等: 島根県臨床工学技士会
期間: 未定(秋季～冬季にかけて)		対象: 臨床工学技士
内容 それぞれの専門分野についての知識向上		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校が選任した評価委員からなる学校関係者評価委員は、本校の自己評価結果を評価し、その客観性や透明性を高めることを目的とする。そして評価の過程を通じて今後の学校運営の改善などに活かすとともに、特色ある学校づくりができるよう位置づけている。学校関係者評価委員会を開催するにあたり、本校の評価結果を説明することはもとより、できる限り豊富な情報の中で評価いただくよう、関連資料を準備し、学校を知る機会をふやし、していくように心がけている。学校として

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	I 教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	II 学校運営
(3)教育活動	III 教育活動
(4)学修成果	IV 学習成果
(5)学生支援	V 学生支援
(6)教育環境	VI 教育環境
(7)学生の受入れ募集	VII 学生の募集と受入れ
(8)財務	VIII 財務
(9)法令等の遵守	IX 法令遵守
(10)社会貢献・地域貢献	X 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価より、評価の低い項目に対しては、委員の方がより質問ならびに助言をいただくことにより、学校および教職員の質の向上を図り、学校運営方針などの再構築を行う。また、自己点検自己評価を行うにあたり、教職員の各項目に対する理解を深めることと、その取り組みに対して、各委員におまご理解いただくとともに、より良い学校運営のためにさらなる連携を図り、助言をもらえるようにしていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中尾 靖	医療法人徳洲会 出雲徳洲会病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生代表
湯座 奈央		令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	保護者代表
吉田 英司	学校法人長島学園 出雲西高等学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	高等学校関係者
打田 祥一	今市コミュニティーセンター	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域関係者
原 徳子	公益社団法人 島根県看護協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界関係者
石田 修平	一般社団法人 島根県理学療法士会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界関係者
福田 勇司	一般社団法人 島根県臨床工学技士会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界関係者
西本 祥久	一般社団法人 山陰言語聴覚士協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://www.icmn.ac.jp>

公表時期: 令和4年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校と連携する企業等地域住民に対して、本校の理解を深めてもらうとともに、関連施設企業との連携、協力をより推進していくために、本校の学校運営全般にわたり広く情報を提供していく。提供にあたり、専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドラインの項目に沿い、わかりやすく丁寧に提供するために項目ごとの内容をよく吟味し、ホームページ

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	2. 各学科の教育
(3) 教職員	3. 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5. 教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6. 学生サポート
(7) 学生納付金・修学支援	7. 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	8. 財務状況
(9) 学校評価	9. 学校評価
(10) 国際連携の状況	10. 国際教育
(11) その他	11. その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://www.icmn.ac.jp>

公表時期: 令和4年9月30日

授業科目等の概要

(医療専門課程臨床工学技士学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			数理科学の基礎	数量的・数学的な知識は重要である。数学および物理学の基本的性質の理解と正確に演算できる能力を身に付けることを目標に	1前	30	1	○			○			
2	○			生物学	分子生物学的な観点から核酸や遺伝子など生命の基本原則を学び、最近のトピックスである遺伝子治療など幅広く教授する。	1前	30	1	○			○			
3	○			化学	医学を学ぶのに必要な基礎知識として、物理化学、無機化学、有機化学、生物化学、化学工学の基礎を幅広く教授する。	1通	60	2	○			○			
4	○			物理学	人体の運動や物理的作用、臨床工学技士が扱う機器の基礎となる物理的知識について	1通	60	2	○			○			
5	○			数学	数学基礎、代数学、微分積分学その他臨床工学に必要な数学の基礎について教授す	1前	30	1	○			○			
6	○			科学英語	英語の基礎を続けて学び、実践的に身につける。	1前	30	1	○			○			
7	○			英会話	英語の基礎をリーディングやリスニング、ロールプレイなどをまじえながら実践的に身につける。	1後	30	1	○			○			
8	○			医療倫理学	医療に関わるにあたり、誰もが考え取り組まざるをえない倫理学を学ぶ。特殊な倫理学を学ぶ前に、共通の土台となる基本的な医療倫理学を学ぶ必要がある。	1前	30	1	○			○			
9	○			健康科学	運動生理学観点から、身体運動のメカニズムや運動処方について学ぶ。また、健康と身体・心身・運動との関係性について学	1前	30	1	○			○			
10	○			形態機能学Ⅰ	身体の外側・内部環境からの防衛機能、感覚器官における情報と受容の処理、人体を保護し種を保存する機能から老化までを中心に学習する。	1前	30	1	○			○			
11	○			形態機能学Ⅱ	消化器・代謝・内分泌・泌尿器の構造と機能を有機的につなぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を統合的に学んでい	1前	30	1	○			○			
12	○			形態機能学Ⅲ	生態をとりまく環境の変化にすばやく反応する機能として、筋の収縮による運動機能、思考や記憶を司る中枢神経機能（動物性神経）を学習する。	1前	30	1	○			○			
13	○			形態機能学Ⅳ	人体の構造と機能を有機的に繋ぎ、系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、そして器官の機能、人体における役割を統合的に学んでいく。	1前	30	1	○			○			
14	○			医療学概論	医学の歴史、医療技術の進歩の概要、特に医療機器の歴史的変遷、医療従事者の倫理、将来の展望について学ぶ。	1前	15	1	○			○			
15	○			公衆衛生学	環境諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解を深める。疾病の予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を	1前	15	1	○			○			
16	○			電気工学	直流回路、交流回路、過渡現象、電力装置など回路理論を中心に電気工学の基礎について学ぶ。また、医療機器として必要な知識をあわせて学ぶ。	1前	60	2	○			○			
17	○	##		電気工学実習	直流電流・電圧に関する実験を行い、R-L直列回路の周波数特性、R-L-C直列回路の共振特性について学ぶ。	1通	60	2				○	○	○	

18	○		システム・ 情報処理実習 I	Windowsの基本操作、ワープロ、表計算、インターネット利用及び簡単なデータベースについて学び、実習する。	1 前	30	1			○	○	○						
19	○		生化学の基礎	生体における代謝の基礎および疾病と機能検査との関連、その他について教授する。	1 後	30	1	○			○						○	
20	○		基礎医学実習	人の構造および機能、病理学概論について構造的、機能的、形態的に理解を深めることを目標として実習を行う。	1 後	30	1			○	○	○						
21	○		病理学	臓器や細胞の変化を理解する。細胞の変化の基本用語、循環障害・炎症・腫瘍など、演習を取り入れての学習になる。	1 後	30	1	○			○						○	
22	○		応用数学	微分方程式、フーリエ級数とフーリエ変換、ラプラス変換など臨床工学に必要な数学について教授する。	1 後	30	1	○			○						○	
23	○		応用物理学	医学流体力学など物理学の医療への応用について教授する。	1 後	30	1	○			○						○	
24	○		電磁気学	静電気、定常電流、磁場と電流、電磁誘導、電磁波、誘導体、磁性体など電磁気現象の基礎について学ぶ。	1 後	30	1	○			○						○	
25	○		電気工学演習	電気工学の講義で学んだことを定着させるために、医療機器に関連の深い内容について演習を中心に学ぶ。	1 後	30	1	△	○		○						○	
26	○		電子工学 I	電子物性の基礎から半導体やダイオードといった各種電子回路素子、各種増幅回路、発振回路などのアナログ回路を中心に学	1 後	30	1	○			○						○	
27	○		人間工学	人間の特性と機械との関係を知り、人間工学の見方、考え方、方法に関する知識を学	1 後	30	1	○			○						○	
28	○		関係法規	臨床工学技士として周知しておくべき法律・法規の理解とその目的について学ぶ	3 前	15	1	○			○						○	
29	○		病態と治療 I	何が原因で病気となり、進行していくのか、結果どのような状態に体になるのかを追求していく病気の際に起こっているからだの形態の微細の変化や目に見える変化を	1 後	30	1	○			○						○	
30	○		病態と治療 II	何が原因で病気となり、進行していくのか、結果どのような状態に体になるのかを追求していく病気の際に起こっているからだの形態の微細の変化や目に見える変化を	1 後	30	1	○			○						○	
31	○		神経疾患の 病態と治療	何が原因で病気となり、進行していくのか、結果どのような状態に体になるのかを追求していく病気の際に起こっているからだの形態の微細の変化や目に見える変化を	1 後	15	1	○			○						○	
32	○		電子工学実習 I	電子工学で学んだアナログ回路を中心に実験を通じて理解を深める	1 後	60	2			○	○	○						
33	○		臨床心理学	臨床心理学の基礎知識を中心に、カウンセリング技法を学ぶ。	2 前	30	1	○			○							○
34	○		人間関係論	医療人として必要である、社会における人間関係、人間関係の存在的意義などを含めて、コミュニケーションの大切さなどにつ	2 前	30	1	○			○							○
35	○		臨床免疫学 ・感染	免疫学序論、免疫担当細胞、体液性免疫・細胞性免疫の仕組みと働きを学ぶ	2 前	30	1	○			○							○
36	○		看護学概論	医療職としての基本となる人々の健康問題をその人と共に解決していこうとする職業である看護を学ぶ。	2 前	15	1	○			○							○
37	○		医療の動向 ・高齢者対策	加齢による社会的・身体的変化や日本の高齢化対策に関する法律・制度とその実践を	2 通	30	1	○			○							○
38	○		電子工学 II	主にデジタル系の仕組みや処理の流れまたは回路理論などを学ぶ。	2 前	30	1	○			○							○
39	○		医療統計学	統計処理の基本的な知識と方法を学び、文献等で用いられる統計を理解する。	2 前	30	1	○			○							○
40	○		電子工学実習 II	電子工学の講義で学んだデジタル回路を中心に実体験を通じて理解を深める。	2 通	60	2			○	○	○						
41	○		情報処理工学	計算機の原理、計算機のソフトウェア、数値計算アルゴリズムその他最近のネットワーク構造などを含めて情報処理工学の基	2 通	60	2	○			○							○
42	○		システム・ 情報処理実習 II	臨床の場で利用されるデータベースを中心に、マクロプログラムまで含めて応用できるように実習する。	2 前	30	1			○	○	○						○
43	○		医用工学概論	生体の構造と機能と特性および生体の物理・化学特性と特異性を中心に医学と工学の橋渡しを体系的に学ぶ。	2 前	30	1	○			○							○

44	○		医用材料工学	人工材料の生体接合剤、組織修復材、診断・薬物療法などの役割を果たす天然および人工生体材料に関する基礎および応用について	2通	60	2	○		○	○							
45	○		医用治療機器学	電氣的治療器、機械的治療機器、手術用機器の原理・用途をはじめとして、最近の内視鏡機器の概要、心臓カテーテルの治療について、その他の保守管理技術について学	2後・3	60	2	○		○	○	○						
46	○		生体機能代行装置学Ⅰ	腎不全症候群について学び、各種疾患に応じた急性・慢性血液浄化療法の概要を学ぶ	2前	60	2	○		○	○	○						
47	○		生体機能代行装置学Ⅱ	循環動態関連検査の原理、補助循環装置、人工心肺関連機器の取り扱い、心臓カテーテル検査、治療について学ぶ。	2後	60	2	○		○	○	○						
48	○		生体機能代行装置学Ⅲ	態生理から疾患治療、また人工呼吸器の構造、操作および保守管理について学ぶ。	2通	60	2	○		○	○							
49	○		臨床医学総論Ⅰ	臨床工学技士に必要である外科学概論を中心に、手術室業務に関する知識、患者管理について学ぶ。	2前	30	1	○		○	○	○						
50	○		臨床医学英語	英語の基礎を続けて学び、実践的に身につける。	2後・3	60	2	○		○	○							
51	○		社会福祉論	社会福祉の理念と意義について理解し、関連する制度や援助方法・形態などを概観す	2後	15	1	○		○								
52	○		社会保障制度	社会保障制度を理解し、対象者への援助の形態および方法、サービス体系の概要、専門職としての専門性と理論を学ぶ。	2後	15	1	○		○								
53	○		臨床薬理学	臨床で使用される薬物の投与、生体内での薬物の吸収・排泄、薬物の効果を中心に学び、呼吸器系、循環器系、脳神経系薬剤および利尿薬、抗生物質等について学ぶ。	2後	30	1	○		○								
54	○		臨床検査総論	臨床検査は不可欠であり、医療職者として臨床検査の基本的な知識を習得する事は重要である。	3前	30	1	○		○								
55	○		電子工学Ⅲ	医療機器などにおいて工学の知識や技術が必要不可欠である。電子工学Ⅲは主にデジタル系の仕組みや処理の流れまたは回路理論などを学ぶ。	2後	30	1	○		○								
56	○		生体物性工学	医用治療機器学、医用機器安全管理学、生体計測装置学等の講義内容をより深く理解するための前段階として基礎的な知識を修	2後	30	1	○		○								
57	○		医用治療機器学実習	臨床現場で広く使用されている医療機器について、実際の操作方法や原理を学び、メンテナンス方法等について実習する。	2後	30	1			○	○	○	○	○				
58	○		生体機能代行装置学実習Ⅰ	血液浄化装置に関する操作および保守管理、点検方法を中心に実習する。	2前	60	2			○	○	○	○	○				
59	○		生体機能代行装置学実習Ⅱ	人工心肺の操作において基礎となる物理的な理解を深めるために回路を構成するパーツをそれぞれ用いて実習を行う。	2後	60	2			○	○	○	○					
60	○		小児科学	成長・発達時期に起因する疾患の原因、診断、治療について学び、専門分野の基礎と	2後	15	1	○		○								
61	○		国際臨床工学概論	異文化にふれるとともに、医療の現状、技術について学ぶ。	2前	30	1			○	○	○						
62	○		課題研究	生体工医学・臨床工学から題材を選び、臨床工学の観点から研究に取り組む。研究活動を通し、実践的な統計処理、理工学的な分析力、問題解決能力を学ぶ。	2後・3	60	2			○	○	○	○					
63	○		臨床医学総論Ⅱ	臨床医学総論Ⅰに続いて、更に外科学の高度な麻酔科学、集中治療医学などの概要と役割、治療について学ぶ。	3前	30	1	○		○	○	○						
64	○		臨床実習	血液浄化業務、集中治療室および手術室業務、医療機器管理業務、その他等、計180時間の病院実習を実施する。	3前	##	4			○	○	○	○					
65	○		生体計測装置学Ⅰ	生体内圧の測定、生体内の流れの計測、生体運動と力の計測、生体化学量の計測などについて、具体的に使われるセンサをあげ、それぞれの仕組みと計測手段や条件に	2前	30	1	○		○								
66	○		生体計測装置学実習	循環器系、神経・筋系、呼吸器系計測機器および医用画像機器を用いて、人の構造および機能の理解を深め、操作、保守管理の	2後	30	1			○	○	○	○	○				

67	○		生体機能代行装置学実習Ⅲ	人工呼吸器の構造、操作と保守管理方法、また実際に人工呼吸器を装着することで、様々な換気様式をシュミレーションした実	3前	60	2			○	○			○	○
68	○		臨床生理学	基礎生理学を復習しながら、臨床工学技士に特に必要となる呼吸・循環・代謝の疾病と生理機能との関連および検査法について	3前	30	1	○			○			○	
69	○		機械工学	機械工学・機械力学・材料力学・熱力学の基礎について学ぶ。	3通	60	2	○			○			○	
70	○		医用機器安全管理学	医療現場で医用機器を正しく安全に使用するために医用機器安全管理学が重要になる。授業では各種のEKG-に対する生体反応、医療機器や病院の安全基準を中心にし	2前・3	60	2	○			○			○	○
71	○		医療マネジメント概論	病院組織、業務の効率化、財務と採算性、医療評価とリスクマネジメント等を中心に学び、臨床工学技士の可能性について教授	3前	15	1	○			○			○	
72	○		放射線工学概論	放射線と生体の相互作用・医学計測への応用・同位元素と医学応用・放射線の治療への応用・安全管理などについて学ぶ。	3後	30	1	○			○				○
73	○		設計製図	放射線と生体の相互作用・医学計測への応用・同位元素と医学応用・放射線の治療への応用・安全管理などについて学ぶ。	3後	15	1	○			○			○	
74	○		システム制御工学	システム理論、インパルス応答、伝達関数など自動制御の基礎を学び、フィードバック制御、シーケンス制御について学ぶ。	3後	30	1	○			○			○	
75	○		画像処理工学	画像処理の基礎論理について学習する。	3後	30	1	○			○				○
76	○		システム・情報処理実習Ⅲ	マクロの復習を行った後で、Visual Basicでプログラミングを行い、就職先(病院、臨床検査機関)に於いて、簡単なシステムが開発できるようにする。	3後	30	1				○	○			○
77	○		人工臓器工学	医用機器の適用、生体計測、監視用機器、治療用機器、生体機能代行補助装置、その他の構成と原理について幅広く学ぶ。	3後	30	1	○			○				○
78	○		計測工学Ⅱ	生体計測を系統的に分類し、実例について学習する。	3後	30	1	○			○			○	
79	○		生体計測装置学Ⅱ	計測の基本事項、生体内圧の測定、生体内の流れの計測、生体運動と力の計測、生体化学量の計測などについて計測手段や条件について学ぶ。	3前	30	1	○			○			○	
80	○		医用機器安全管理学実習	電気的安全性および医用ガスの安全性、種々のチェッカーを利用した安全管理技術について実習する。	3前	30	1				○	○		○	○
81	○		計測工学Ⅰ	計測の基礎から計測論・誤差論なども含めて臨床工学に必要な計測の基礎について学	3後	30	1	○			○			○	
82	○		医用機器学概論	医療機器の適用、生体計測、監視用機器、治療機器、生体機能代行補助機器、その他の構成と原理について幅広く学ぶ	3後	60	2	○			○			○	
83	○		国家試験演習	臨床工学技士国家試験の過去問題及び類似問題を用いた10回の実力テストを実施し、時期毎の進捗状況を確認しながら国家試験合格100%を目指す。	3後	##	4				○			○	
合計						85	科目				103	単位(単位時間)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 全ての授業科目の単位修得の認定を受け、出席すべき日数の2/3以上の出席があること。卒業判定会議で認定されたもの。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 出席状況、小テスト、試験の結果を総合的に評価		1学期の授業期間	23週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。